

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」 「おんせん県おおいた別府型・ドリームプロジェクト」事業概要

大分大学高等教育開発センター
センター長 山下 茂

「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」の推進にあたって、大分大学は「センターオブコミュニティ」としての役割を担う1つの事業として、別府市の活性化、さらに大分県が進める「おんせん県おおいた」の推進の一翼を担うために中心的な役割を引き受けました。大分県における唯一の国立系大学の役割は、県内の大学等で組織する「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の事務局を担っていることでも分かるように、大分県の高等教育機関が果たす役割の中核的役割を担っています。そうした役割を果たすための1つとして、学生の学びを支援していただく人材や地域の活性化のための関係者とのネットワークづくりを進めることも重要な役割と考えています。本事業は、まさにその1つの具体的な事業としての成果を求められているものと受け止めています。

こうした考えのもとに、本学高等教育開発センターがその事務局を担って本事業を中心的に推進してきました。この間、多くの方々の、本学への期待や、街づくり関係者との連携・協力による別府市の活性化や子どもの育成への期待がヒシヒシと伝わってきました。

以下、本事業に関する基本的な考え方、及び取り組んできた内容の概要を整理します。

1. 「おんせん県おおいた別府型・ドリームプロジェクト」事業の目的

本事業の目的は事業名のとおり、「社会が求める中核的専門人材の育成」を行う、高等教育機関の役割が問われるものであり、高等教育機関に求められる中核的専門人材を育成するための方策をモデル的に検証するものと考えています。まさに、高等教育機関におけるキャリア教育カリキュラムの開発とその実証、そして、就業への繋がりが期待できるシステム作りが求められているものと考えています。そのためには、まちづくりや地域の活性化に課題を抱える行政や企業、地域活動を続ける組織・団体、さらに、高等教育機関や医療機関等の専門的領域の関係者が、その枠を超えてそれぞれの役割（長所）を繋げ、融合することによって、それぞれが担えない機能や役割を補い、新しいテーマコミュニティを形成することが重要であるという考えを基盤にしています。

その新しいテーマコミュニティづくりを推進するために「おんせん県おおいた別府型・ドリームプロジェクト」を組織し、

- ① 人材育成機関としての別府溝部学園短期大学の理解を得て、
- ② プロジェクトを基盤にして事業目的や目指す中核的人材像等を明確にしつつ事業実施方策の協議し
- ③ その方針を基にして、教育プログラムを作成すること
- ④ その教育プログラムを実証・検証すること
- ⑤ さらに、将来的には企業や行政が求める人材を社会に送り出すこと（就業保証）
- ⑥ 受け入れた社会（企業等）が更に育成すること

という「まちの活性化」が図られるというサイクルを創り出すことが、本事業が目指す構造であると考えています。そこで、人材育成母体としての別府溝部学園短期大学、推進組織となる「おんせん県おおいた別府型・ドリームプロジェクト」が協働で実施することとしたものである。

2. 具体的な事業内容

本事業を推進するうえでの右図を前提としたプロジェクトの組織化とともに、プロジェクトを中心とした以下の取り組みが出来たことは、次年度以降の「温泉コンシェルジュ」養成の基盤が出来上がった。

(1) 会議

①おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト 中央委員会

本事業の基本的事項の協議を行いつつ、事業進捗状況の確認、課題・問題点の共有、長期ビジョンの形成等に関して、8名の委員で実施した。

②プログラム評価委員会

温泉コンシェルジュに求められる能力・実施の検討を行いつつ、12名の委員で教育プログラムを検討・作成した。

(2) 調査・検討

①別府温泉コンシェルジュ”の定義付け

②“別府温泉コンシェルジュ”に求められる必須能力に関する調査・検討

③シラバスの実施に関する具体的なカリキュラムの検討と作成

(3) 成果物

①温泉コンシェルジュに必要な資質・能力を育成する10科目の専門科目のカリキュラムを作成した。

②別府溝部学園短期大学の食物栄養科目に「温泉コンシェルジュコース」を開設する教育課程（案）ができた。

③ 受講者募集のチラシ・ガイドブックの作成・配布を行い広報・啓発の取り組みができた。

3. 成果と事業実施の課題

(1) 成果

①「温泉コンシェルジュ」の養成に関するカリキュラム作成をとおして、県内においてこれまで見られない充実した専門科目ができた（関係者の声）ことにより、高等教育機関の教育機能の充実に期待できる。

②高等教育機関の人材育成と地域が求める人材とのマッチングのテーブルが出来た事による今後の議論、就業への直接的な繋がりを視野に入れた教育活動への可能性が広がった。

③分野の異なる関係機関や専門家のネットワークが出来たことにより、この機能を他の分野の活用にも期待できる。

④委員及び別府溝部学園短期大学の教員等が、本物のコンシェルジュの講演を聴講することによって、本事業が目指す「コンシェルジュ」養成の方向性を確認できた。

(2) 課題

①作成された教育プログラムのスムーズな実施のための、幅広い協力者・支援者の確保とネットワークの拡大が必要である。

②実施者である別府溝部学園短期大学を主体とした今後の運営システムづくりの検討が必要である。

③入学生募集と、別府市を中心とした大分県内の温泉地における就業のシステムが必要である。

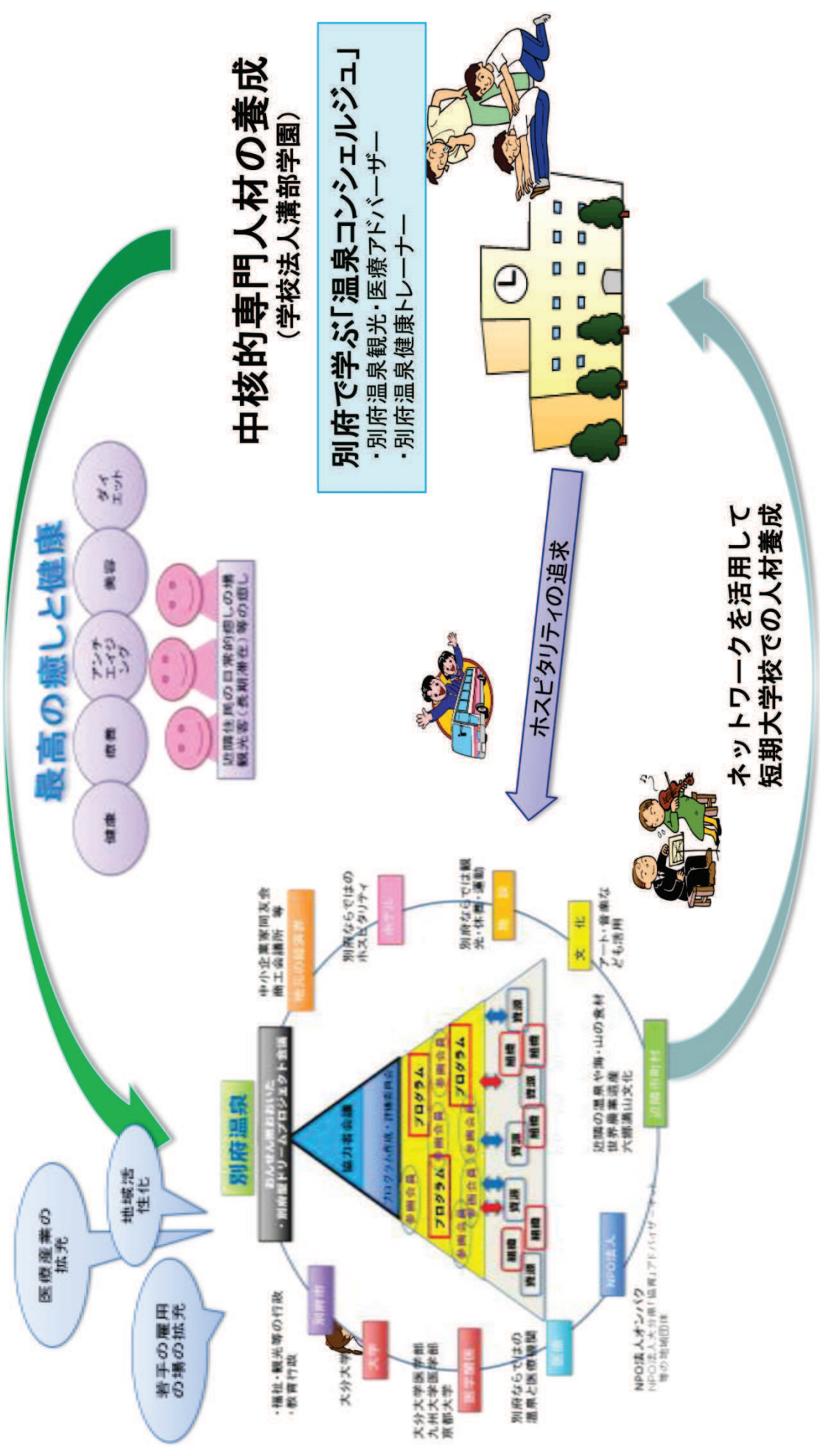
事業主体である別府溝部学園短期大学を中心として「おんせん県おおいた」の一翼を担える人材の養成への道が開かれたことに、大分大学として感謝するとともに今後の取り組みに期待し、以下のとおり、事業の成果やカリキュラムを紹介することによって本事業の報告とします。



事業名：温泉と健康・医療をつなぐ別府温泉コンシエルズ養成事業
 ＊別府の温泉で地域と日本を元気に～別府の新しい魅力発見～＊

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト概要

推進組織 ①中央委員会議（委員は別表） ②カリキュラム評価委員会（委員は別表）
事業推進担当：大分大学高等教育開発センターに置く
協力：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットワーク



【観光・医療分野 職域プロジェクト】

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」 おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト (大分大学、溝部学園等)

課題・ニーズ・背景等

【外部環境】

- ・長引く景気低迷
- ・人口減少による需要減少
- ・娯楽に対する
- ・消費者ニーズの
- ・高度化・多様化等

【内部環境】

- ・団体客依存体質
- ・過大投資による過剰債務
- ・価格競争激化
- ・後継者難

取組の概要

目標:

別府をベースに学ぶ「温泉コンシエル
ージュ」に求められるカリキュラム検討

目的:

- ① “温泉コンシエルージュ”の定義付け
- ② “温泉コンシエルージュ”に求められる必須能力の設定
- ③ “温泉コンシエルージュ”養成カリキュラムの作成

成果目標(アウトカム)

別府温泉

コンシエルージュの育成

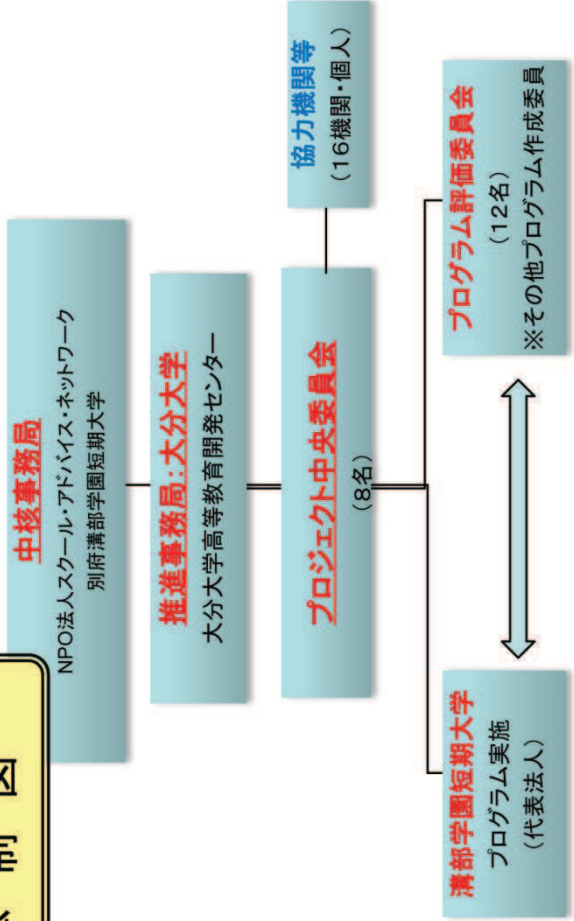
↓

「健康」、「療養」、「アンチエイジング」、
「美容」、「ダイエット」「メンタル」
”最高の癒やしと健康”を提供



全国の温泉観光への普及

体制図



参加・協力機関等

○教育機関(関係者含む)

大分大学、別府溝部学園短期大学

○行政機関(関係者含む)

別府市、別府市教育委員会

○産業団体・企業等

- 大分県中小企業家同友会、別府市観光協会
- 畑病院、NPOハットヴ・オンパク、
- NPO大分県「協育」アドバイザーネット
- 大分県「協育」ネットワーク協議会
- 東国東地域デザイン会議
- NPO法人ベッププロジェクト
- NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク
- その他、温泉研究者・地域研究者等

【観光・医療分野 職域プロジェクト】

平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」
おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト

(大分大学、溝部学園等)

取組内容

【会議】

・おんせん県おおいた・別府型

ドリームプロジェクト中央委員会

目的:本事業目的の共有、
事業進捗状況の確認、
課題・問題点の共有、
長期ビジョンの形成

体制:8名の委員を招聘

開催回数:4回(9月、12月、2月、2月)

・プログラム評価委員会

目的:温泉コンシエルジュに求められる
能力・実施の検討

体制:12名の委員を招聘

開催回数:3回(その他検討会の実施)

内容・カリキュラムの作成・検討

【調査・研究】

- ①“別府温泉コンシエルジュ”の定義付け
- ②“別府温泉コンシエルジュ”に求められる
必須能力に関する調査・検討
- ③シラバスの実施に関する具体的なカリキ
ュラムの検討と作成

成果(アウトプット)

- ①“別府温泉コンシエルジュ”の定義の形成
- ②“別府温泉コンシエルジュ”に求められる必須能力

①授業カリキュラムの作成

・評価標準の作成・カリキュラムの作成(シラバス・授業内容)

②授業スタッフの決定

③食物栄養学科内での「温泉コンシエルジュコース」の設置

成果の1次検証

カリキュラムづくりの総括

内容:温泉コンシエルジュ”に求められる必須能力に関する検討による専門科目の
総括及びコンシエルジュ、先進地の教授を招聘しての研修を行った。

規模:中央委員・カリキュラム評価委員・溝部学園関係者を中心に実施した。

時期:平成26年3月10日(月)

H25

参画する組織の数
及びカリキュラムの
内容

H26

カリキュラムの
実証と検証

H27

カリキュラムの
大学等への定着

H28

他地域
“温泉コンシエル
ジュ”への普及

【観光・医療分野 職域プロジェクト】
 平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進」
 おんせん県おおいた・別府型ドリムプロジェクト
 （大分大学、溝部学園等）

本事業で目指す「温泉コンシエルジュ」のイメージ

職場や他のコンシエルジュとネットワークを構成し、「温泉をベースとしたコンシエルジュ」とした顧客への「総合世話係」であり、各種法律や温泉の効果・効能に関する知識を持ち、総合的、個別的な温泉プログラムを提供するサービスができる知識や情報、コミュニケーション力等を取得したコンシエルジュ。

1. 「コンシエルジュ」とは

○ サービスをする専門家（「総合世話係」として、顧客が最も頼りになる「究極のパーソナルサービス」をする人（職業）

2. 「別府温泉コンシエルジュ」とは

○ 別府温泉をベースにした観光と最高の癒しを提供できるプログラムの提供と総合的なおもてなしを提供する温泉コンシエルジュ



本事業で定義する「温泉コンシエルジュ」

職場や他のコンシエルジュとネットワークや温泉の効果・効能に関する知識等を持つなど、温泉をベースとした総合世話係として、「温泉プログラム」を提供するコンシエルジュ。



中核的専門人材としての「別府温泉コンシエルジュ」に求められる知識・能力 基本的に求められるもの	評価方法（詳細はシラバスに記載）		評価内容
	①知識	②問題解決能力	
1. コンシエルジュとしての資質・能力・基礎知識の習得	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定
2. 別府に関する基礎知識の習得	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定
3. 温泉の利用に関する学び	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定
4. 温泉と健康・医療に関する学び	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定
5. 別府温泉と観光の街づくりに関する学び	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定
※ 上級コンシエルジュの資質の習得	ペーパー試験	授業時に行う課題	別途設定 別途設定